

ICOM®

取扱説明書

54Mbps/11Mbps 無線LANカード

SL-5000



Icom Inc.

54Mbps DUAL
11Mbps
WAVEMASTER®

- 1 ご使用の前に
- 2 ドライバーのインストール
- 3 設定ユーティリティについて
- 4 アクセスポイントと無線通信する
- 5 パソコン同士で無線通信する
- 6 ご参考に

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、11Mbps(2.4GHz帯)と54Mbps(5.2GHz帯)の通信を本製品一枚で行える無線LANカードです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、icom は、アイコム株式会社の登録商標です。WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

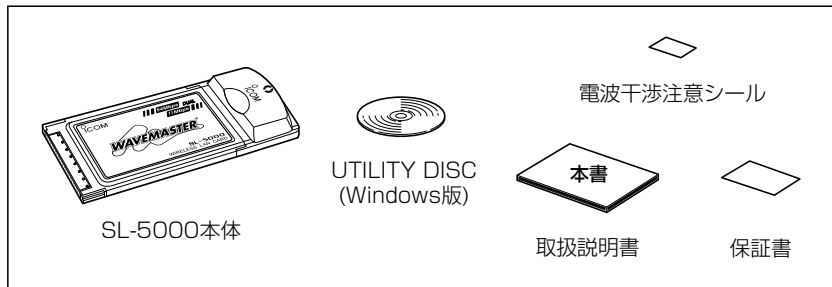
Atheros Drivenロゴは、Atheros Communications, Inc. の商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

標準構成品

本製品には、次のものが同梱されています。

本製品をご使用になる前に、すべて揃っていることを確認してください。



不足しているものがございましたら、お手数ですがお買い上げの販売店または弊社営業所サービス係までお問い合わせください。

はじめに

本製品の概要について

- ◎IEEE802.11aとIEEE802.11bの無線LAN規格に対応していますので、最大54Mbpsまたは最大11Mbpsの無線LANで使用できます。
- ◎電波方式として、IEEE802.11b(11Mbps)では直接スペクトラム拡散方式を採用していますので、雑音や妨害に強く、データの安定性、秘匿性に優れています。
また、IEEE802.11a(54Mbps)ではマルチパスに強い地上波デジタルテレビジョン放送と同じ変調(OFDM)方式を採用しています。
- ◎従来の暗号化(WEP)に加え、最新の暗号化アルゴリズム(OCB AES)を搭載しています。
- ◎暗号化認証方式は、「シェアードキー」と「オープンシステム」の両方に対応しています。
- ◎セキュリティーの国際規格であるIEEE802.1xを使用したユーザー認証に対応していますので、Windows XPで信頼性の高い無線通信が行えます。
- ◎Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続に対応していますので、通信相手を簡単に切り替えられます。
- ◎Atheros製802.11a/b規格対応チップセットを搭載しています。
- ◎株式会社 ディーエスピーリサーチの技術基準適合証明を取得していますので、無線局の免許は不要です。



動作環境について

- パソコンは、PC/AT互換機(DOS/V)に対応します。
- PCカードスロット(CardBus Type II)を装備するパソコンに対応します。
- 本製品のドライバーと設定ユーティリティーは、次の日本語OSに対応します。
 - Windows XP Professional
 - Windows XP Home Edition
 - Windows 2000 Professional
 - Windows Millennium Edition
 - Windows 98 Second Edition

※本書では、各対応OSに対する記載について下記のように総称し、表記しています。
Windows XP、Windows 2000、Windows Me、Windows 98 SE

ユーザー登録について

本製品のユーザー登録は、アイコムホームページで行っています。
インターネットから、「<http://www.icom.co.jp/>」にアクセスしていただき、ユーザー登録用フォームにしたがって必要事項をご記入ください。
ご登録いただけない場合、サポートサービスをご提供できませんのでご注意ください。

はじめに

無線LANの電波法についてのご注意

- 電波法により、屋外で5.2GHz帯無線LANを使用することを禁じています。
- 本製品に使用している無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、特定無線設備の認証を受けています。
したがって、本製品の使用に際しては、無線局の免許は必要ありません。
- 本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。
本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。
したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。
また、その国の法令に抵触する場合がありますので、使用できません。
- 心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品をご使用にならないでください。
心臓ペースメーカーに電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。
- 医療機器の近くで本製品を使用しないでください。
医療機器に電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。
- 電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。
電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。
- 本製品の無線装置は、電波法に基づく認証を受けていますので、本製品の分解や改造をしないでください。

2.4GHz無線LANの電波干渉についてのご注意

2.4GHz帯(11Mbps)無線LANで通信するときは、次のことがらに注意してください。
この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための対処等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談ください。
- その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社 **サービス窓口 06-6792-4949**
(9:00~12:00、13:00~17:00)

※5.2GHz帯(54Mbps)無線LANでの通信は、電波干渉はありません。

はじめに

2.4GHz無線LAN 表記の意味について

「2.4」：2.4 GHz帯を使用する無線設備を示す。

「DS」：変調方式を示す。

「4」：想定される干渉距離が40m以下であることを示す。

「---」：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能なことを示す。

本書の表記について

本書では、次の表記規則にしたがって記述しています。

「 」表記： オペレーションシステム(OS)、ユーティリティー、メニュー、ウィンドウ(画面)の名称を(「 」)で囲んで表記します。

[] 表記： タブ名、アイコン名、テキストボックス名、チェックボックス名などを([])で囲んで表記します。

< > 表記： ダイアログボックスのコマンドボタンなどの名称を(< >)で囲んで表記します。

※本書では、各対応OSに対する記載について下記のように総称し、表記しています。

Windows XP、Windows 2000、Windows Me、Windows 98 SE

取り扱い上のご注意

- ◎2.4GHz帯(11Mbps)と5.2GHz帯(54Mbps)の同時通信はできません。
- ◎5.2GHz帯(54Mbps)は、電波法により、屋外で使用することは禁止されています。
- ◎パソコンおよび本製品以外の周辺機器の取り扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。
- ◎本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。
このようなときは、本製品が装着された機器を、妨害を受けている機器からできるだけ離して設置してください。
- ◎本製品のドライバーおよび設定ユーティリティは、本製品以外の機器で使用しないでください。
- ◎本製品の改変や分解したことによる障害、および故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ◎本書の著作権およびハードウェア、ソフトウェアに関する知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。
- ◎本書の内容の一部または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。
- ◎本書およびハードウェア、ソフトウェア、外観の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

はじめに

CD(UTILITY DISC)について

本製品のドライバーと設定ユーティリティーが収録されています。
本製品に付属のCDは、PC/AT互換機でご使用ください。

ご使用になるPC/AT互換機のCDドライブに挿入すると、パソコンの**Auto Run機能**により、メニュー画面を自動的に表示します。

- ※メニュー画面からインストールを行う前に、ほかのアプリケーションが起動していないことを確認してください。
- ※メニュー画面が表示されないときは、本製品のCDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックしてください。
- ※「UTILITY DISC」をCDドライブに挿入直後、[Shift]キーをしばらくのあいだ押し続けると、Auto Run機能をキャンセルできます。

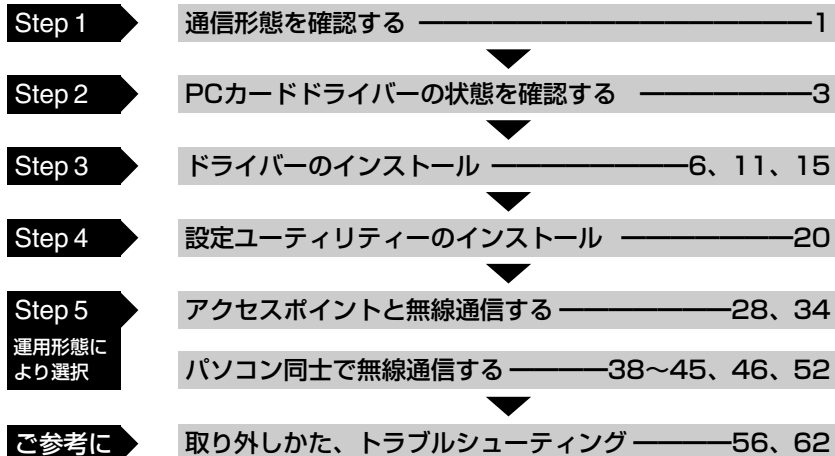


〈ご参考に〉


CD収録の補足説明書には、本書で説明していない設定項目を詳しく説明しています。

ご使用までの流れ

本製品を無線ネットワークに接続するまでの設定や操作の手順です。
本書をご覧ください。場合、次のステップ(Step)にしたがって導入してください。
各ステップの右端に記載する数字は、本書の参照ページです。
※詳細な設定をされたい場合は、CDに収録の補足説明書(PDF形式)をご覧ください。



もくじ

はじめに	i
登録商標について	i
標準構成品	ii
本製品の概要について	iii
動作環境について	iv
ユーザー登録について	iv
無線LANの電波法についてのご注意	v
2.4GHz無線LANの電波干渉についてのご注意	vi
2.4GHz無線LAN  表記の意味について	vii
本書の表記について	vii
取り扱い上のご注意	viii
CD(UTILITY DISC)について	ix
ご使用までの流れ	x
もくじ	xi
安全上のご注意(必ずお読みください。)	xvi

第1章

ご使用の前に ————— 1

1-1.通信形態を確認する	1
1-2.各部の名称と機能	2
1-3.PCカードドライバーの状態を確認する	3
1-4.使用する場所について	5

第2章

ドライバーのインストール ————— 6

2-1.Windows XPの場合	6
2-2.Windows Me/2000の場合	11
2-3.Windows 98 SEの場合	15

第3章

設定ユーティリティについて ————— 20

3-1.設定ユーティリティのインストール	20
3-2.起動と終了のしかた	23
3-3.設定ユーティリティをWindows XPで使うには	26

4-1.Windows XPで通信をする.....	28
■ 接続の手順	28
■ 次回起動時の接続について	29
■ アクセスポイントを切り替えるには	29
■ アクセスポイントの設定追加について	30
■ 認証モードについて	33
4-2.Windows 2000/Me/98 SEで通信をする	34
■ 接続の手順	34
■ 次回起動時の接続について	36
■ アクセスポイントを切り替えるには	36
■ 起動時の優先接続について	37

第5章

パソコン同士で無線通信する 38

5-1.IPアドレスを設定する	38
5-2.「フル コンピュータ名」と「ワークグループ」の設定	42
5-3.「共有フォルダー」の設定	44
5-4.Windows XPで通信をする	46
■ 本製品の設定	46
■ 接続の手順	50
■ 次回起動時の接続について	51
■ 通信相手を切り替えるには	51
5-5.Windows 2000/Me/98 SEで通信をする	52
■ 接続の手順	52
■ 次回起動時の接続について	55
■ 通信相手を切り替えるには	55

6-1.本製品の取り外しかた	56
6-2.本製品のアンインストール	57
■ Windows XPの場合	57
■ Windows 2000/Me/98 SEの場合	58
6-3.本製品のインストール状態を確認する	59
6-4.Pingコマンドで接続を確認する	61
6-5.トラブルシューティング	62
■ ドライバー/設定ユーティリティを Windows XP/Windows 2000に インストール、またはアンインストールできない	62
■ 本製品をPCカードスロットに装着してもランプが点灯しない	62
■ ドライバーが正しくインストールできない	62
■ 無線アクセスポイントと通信できない	63
■ パソコン同士で無線通信できない	64
6-6.コールセンターについて(※お客様の疑問・質問にお答えします。)	65
6-7.故障のときは	66
6-8.定格	67

安全にお使いいただくために、
ご使用の前に、必ずお読みください。

- ▶ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- ▶次の『△危険』『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- ▶お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

- ◎本製品のコネクター部分に線材のような金属物を入れたり、差し込んだりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

安全上のご注意

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。
感電の原因になります。
- ◎水や海水につけたり、ぬらさないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎本製品の取り付けや取り外し、保管するときは、赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で行ってください。
けが、感電の原因になります。
- ◎指定以外の付属品および別売品は、使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎万一、煙が出ている、変なにおいがする、変な音がするなどの異常がある場合は、使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに本製品を取りはずしてください。
煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- ◎本製品をパソコンに装着するときは、本製品の裏と表を間違えないように十分注意してください。
故障の原因になることがあります。
- ◎OSの起動中は、本製品を取り外したり、取り付けたりしないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎テレビやラジオの近くで使用しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- ◎強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度がパソコンの取扱説明書に定めた使用環境を超える、または結露するところでは使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所では使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になることがあります。
- ◎本製品の通信中に、本製品を取りはずさないでください。
故障や、データの消失または破損の原因になることがあります。
- ◎本製品の上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎本製品を落としたり、強い衝撃を与えたり、無理にねじったりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。

安全上のご注意

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- ◎本製品を取り付けたパソコンをぐらついた台の上や、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎長時間、本製品を使用しないときは、安全のためパソコンから本製品を取りはずしてください。
発熱、発火、故障の原因になることがあります。

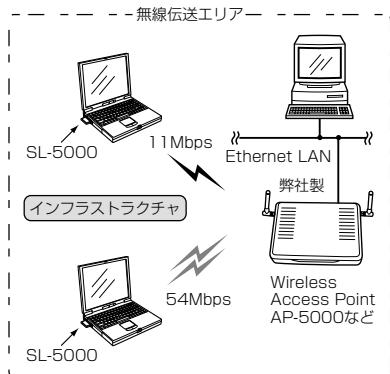
- ◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

1-1. 通信形態を確認する

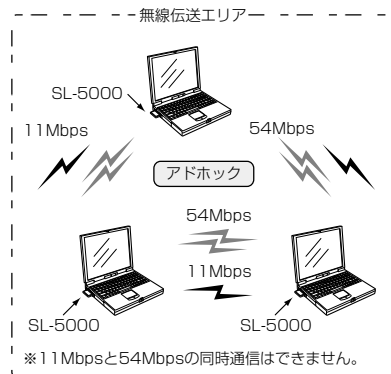
本製品は、ご使用の環境によって、次のどちらかの「無線通信モード」が選べます。

※出荷時は、「インフラストラクチャ」モードに設定されています。

■ アクセスポイントと無線通信する 「インフラストラクチャ」モード(※4章)

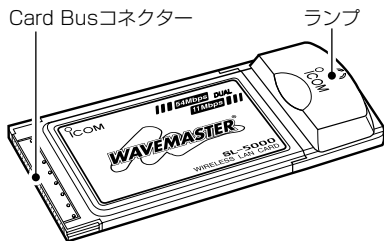


■ パソコン同士が無線で直接通信する 「アドホック」モード(※5章)



1 ご使用の前に

1-2.各部の名称と機能



「Plug and Play」に対応していますので、パソコンのOSが起動した状態で本製品を装着できます。

【CardBusコネクタ】

パソコンに装備されたPCカードスロット (CardBus type II) に接続する端子です。
※金属片やゴミがコネクタに付着していないことを確認してから装着してください。

■ ランプと無線LANカードの状態

ランプ	無線LANカードの状態
同時に高速で点滅	送受信しているデータ量が多いとき
同時にゆっくり点滅	送受信しているデータ量が少ないとき
交互にゆっくり点滅	無線伝送可能なエリアを外れた場合など、通信できる無線LAN機器を探しているとき
消灯	本製品に電源が供給されていないとき

1-3.PCカードドライバーの状態を確認する

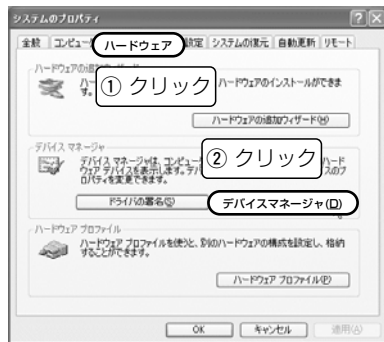
本製品のドライバーをインストールする前に、32ビットPCカードドライバーの状態を確認してください。(※手順は、Windows XPを例に説明しています。)

■ 確認の手順

- 1.マウスを〈スタート〉→[マイコンピュータ] (右クリック)→「プロパティ(B)」の順にクリックします。
 - 「システムのプロパティ」を表示します。



- 2.[ハードウェア]タブ→〈デバイス マネージャ(D)〉の順にクリックします。
 - 「デバイス マネージャ」を表示します。

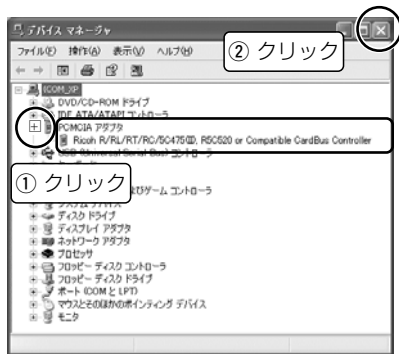


1 ご使用の前に

1-3.PCカードドライバーの状態を確認する

■ 確認の手順(つづき)

3.「PCMCIA アダプタ」の田をクリックして表示されるデバイスのアイコンに「!」や「×」マークが付いていないことを確認します。



4.「!」や「×」マークが付いていなければ、「デバイス マネージャ」の〈×〉をクリックして、画面を閉じます。

※「PCMCIA アダプタ」の中に表示されるデバイス名に「!」や「×」マークが付いている場合は、ご使用のパソコンに付属する取扱説明書などを参考にPCカードドライバーを再インストールしてください。

〈ご参考に〉

左の画面で、「PCMCIA アダプタ」の中に表示されるデバイス名は、ご使用のパソコンによって異なります。

1-4.使用する場所について

下記の内容について注意しないと、通信範囲や速度に影響します。

- ◎ 次のことを考慮して、ご使用ください。
 - 本製品の上に物を置かないでください。
 - 電波は壁やガラスを通過しますが、金属は通過しません。
コンクリートの壁でも、金属補強材が中に埋め込まれていて、電波信号を遮断するものがあります。
 - 通信範囲はオープンスペースだと最も広くなりますが、倉庫の中のように大きな金属製の壁があると、電波を反射することがあります。
 - 床にはふつう、鋼製の梁がはいっており、金属製防火材が埋め込まれていることもあります。そのため多くの場合、違う階どうしでは通信できません。
- ◎ 振動や傾きが無く、落下の危険がない安定した場所でご使用ください。
- ◎ 本製品を装着したパソコンができるだけ相手方を見通せるような場所でご使用になることをおすすめします。
- ◎ 「インフラストラクチャ」モードで使用するとき、無線端末の収容台数は、弊社製無線アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。
- ◎ 「アドホック」モードで使用する時、同じグループに最大40～50台収容できますが、煩雑に通信をするような環境では、接続台数を10台以下にすることをお勧めします。
- ◎ 本製品の最大伝送距離は、通信速度(11Mbps/54Mbps)によって異なります。
定格(☞6-8章)でご確認ください。

2 ドライバーのインストール

2-1.Windows XPの場合

本製品のドライバーをインストールする手順について説明します。

※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

■インストールの手順

- 1.パソコンの電源を入れて、**管理者権限**で**ログオン**します。
- 2.現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
- 3.本製品に付属のCDをパソコンのCDドライブ[D:](以後CDドライブをDとする)に挿入します。
- 4.CDドライブのAuto Run機能が動作して、右のメニュー画面が表示されます。
※表示しないときは、本製品に付属のCDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックしてください。

- 5.〈ドライバインストール〉ボタンをクリックします。



■再インストールするときは、PCカードスロットから本製品を取り外して、インストール手順1.~6.の操作を行って表示される画面にしたがうと、アンインストールウィザードが表示され、続けて操作すると再インストールできます。

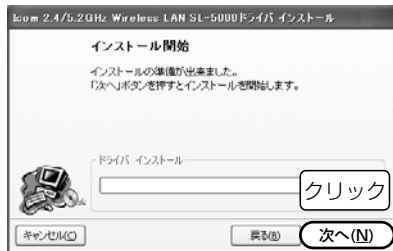
■ インストールの手順(つづき)

6. <次へ(N)> をクリックします。



7. <次へ(N)> をクリックします。

- インストールを開始します。

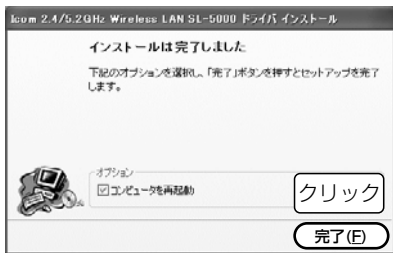


2 ドライバーのインストール

2-1.Windows XPの場合

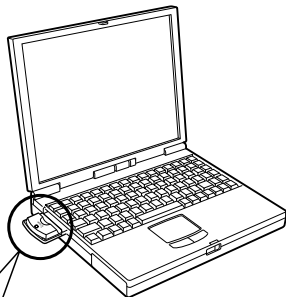
■ インストールの手順(つづき)

8. <完了(F)> をクリックします。

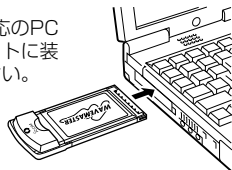


9.本製品をパソコンのCard Bus対応PCカードスロットに、WAVEMASTERのシールが貼られた面を上にして挿入します。(※右図参照)

なお、メーカーによっては異なることがありますので、ご注意ください。



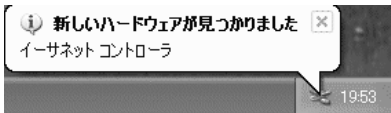
※ CardBus対応のPCカードスロットに装着してください。



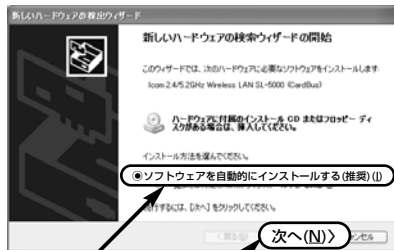
■ インストールの手順(つづき)

10. パソコンが本製品の装着を認識すると、次の画面を表示します。

表示しないときは、「PCカードドライバの状態を確認する」(☞ 1-3章)を確認してください。



11. インストール方法を確認して、〈次へ(N)〉をクリックします。



① 確認する

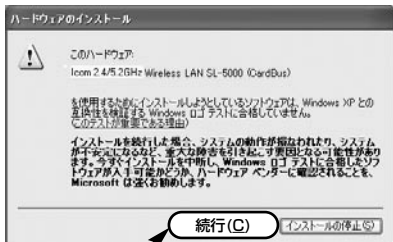
② クリック

2 ドライバーのインストール

2-1.Windows XPの場合

■ インストールの手順(つづき)

12. ドライバーを検索する画面を表示中に、次の画面が表示されたら、〈続行(C)〉をクリックします。
- インストールを開始します。



13. 〈完了〉をクリックします。



〈ご参考に〉

ドライバーをパソコンにインストール後は、本製品を装着するだけで使用できます。

2-2.Windows Me/2000の場合

本製品のドライバーをインストールする手順について説明します。

※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

■ インストールの手順

1.パソコンの電源を入れます。

※Windows 2000は、**管理者権限でログオン**します。

2.現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。

3.本製品に付属のCDをパソコンのCDドライブに挿入します。

4.CDドライブのAuto Run機能が動作して、右のメニュー画面が表示されます。
※表示しないときは、本製品に付属のCDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックしてください。

5.〈ドライバインストール〉ボタンをクリックします。



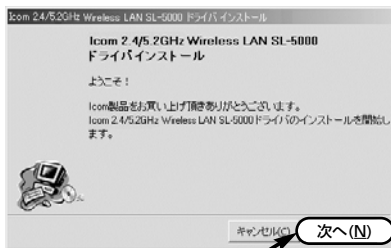
■再インストールするときは、PCカードスロットから本製品を取り外して、インストール手順1.~6.の操作を行って表示される画面にしたがうと、アンインストールウィザードが表示され、続けて操作すると再インストールできます。

2 ドライバーのインストール

2-2.Windows Me/2000の場合

■ インストールの手順(つづき)

6. <次へ(N)> をクリックします。



Windows 2000では、[ドライバの署名]確認を「無視」に設定している場合、この部分は表示されません。表示されていない場合は、次ページ(手順9.)の操作に移ります。

7. <次へ(N)> をクリックします。

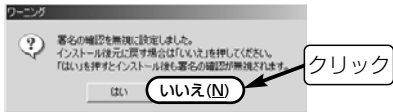
- インストールを開始します。
※Windows Meのかたは、手順9.の操作に移ります。



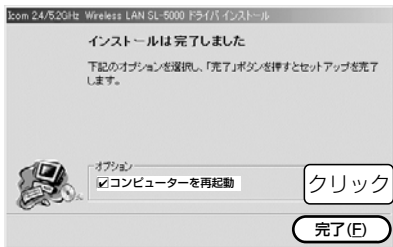
■ インストールの手順(つづき)

8. <いいえ(N)> をクリックします。

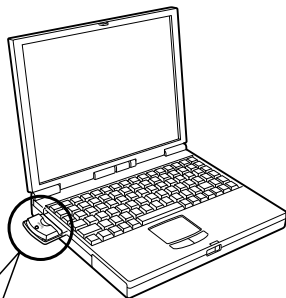
※次回のインストールから、[ドライバの署名]確認を表示させない場合は、<はい(Y)> をクリックしてください。



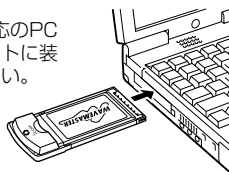
9. <完了(E)> をクリックします。



10. 本製品を装着します。



※ CardBus対応のPC
カードスロットに装
着してください。



2 ドライバーのインストール

2-2.Windows Me/2000の場合

■ インストールの手順(つづき)

※本製品の装着は、パソコンのCard Bus 対応PCカードスロットに、WAVE-MASTERのシールが貼られた面を上にして挿入してください。

なお、メーカーによっては異なることがありますので、ご注意ください。

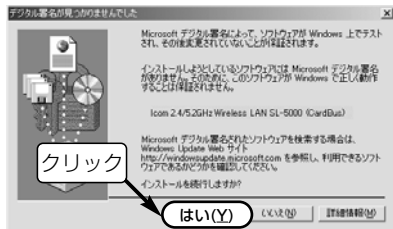
11.本製品の装着を自動認識して、次の画面を表示します。

表示しないときは、「PCカードドライバーの状態を確認する」(※1-3章)で確認してください。



12.Windows 2000の場合、次の画面が表示されたときは、〈はい(Y)〉をクリックします。

本製品に付属のCDをCDドライブから取り出すと完了です。



〈ご参考に〉

ドライバーをパソコンにインストール後は、本製品を装着するだけで使用できます。

2-3.Windows 98 SEの場合

本製品のドライバーをインストールする手順について説明します。

※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

■ インストールの手順

- 1.現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
- 2.本製品に付属のCDをパソコンのCDドライブ[D:](以後CDドライブをDとする)に挿入します。
- 3.CDドライブのAuto Run機能が動作して、右のメニュー画面が表示されます。
※表示しないときは、本製品に付属のCDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックしてください。

- 4.〈ドライバインストール〉ボタンをクリックします。



■再インストールするときは、PCカードスロットから本製品を取り外して、インストール手順1.~5.の操作を行って表示される画面にしたがうと、アンインストールウィザードが表示され、続けて操作すると再インストールできます。

2 ドライバーのインストール

2-3.Windows 98 SEの場合

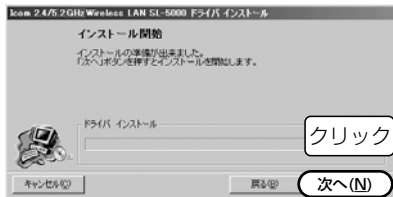
■ インストールの手順(つづき)

5. <次へ(N)> をクリックします。



6. <次へ(N)> をクリックします。

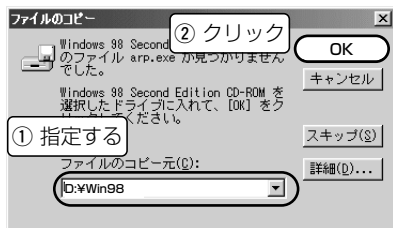
- インストールを開始します。



7. <OK> をクリックします。

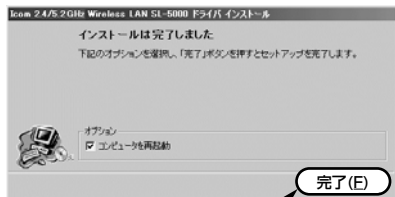


8. 本製品に付属のCDとOSのCD-ROMを入れ替えて、CDドライブ名[D:]とそのフォルダー(D:¥Win98)を指定してから<OK> をクリックします。



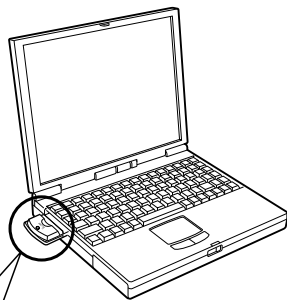
■ インストールの手順(つづき)

9. <完了(E)> をクリックします。



クリック

10. 本製品をパソコンのCard Bus対応PCカードスロットに、WAVEMASTERのシールが貼られた面を上にして挿入します。(※右図参照)
 なお、メーカーによっては異なることがありますので、ご注意ください。



2 ドライバーのインストール

2-3.Windows 98 SEの場合

■ インストールの手順(つづき)

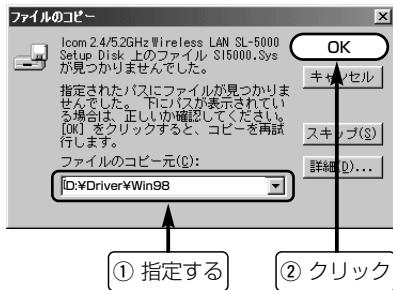
- 11.パソコンが本製品の装着を認識すると、次の画面を表示します。
表示しないときは、「PCカードドライバの状態を確認する」(※1-3章)を確認してください。



- 12.「ディスクの挿入」画面が表示されたときは、〈OK〉をクリックします。
※「ディスクの挿入」画面が表示されないときは、手順14.に進みます。



- 13.OSのCD-ROMと本製品に付属のCDを入れ替えて、CDドライブ名[D:]とそのフォルダー(D:¥Driver¥Win98)を指定してから、〈OK〉をクリックします。



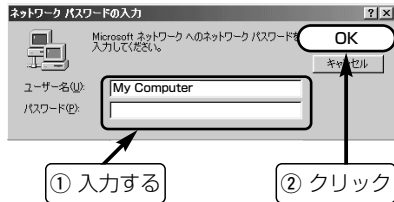
■ インストールの手順(つづき)

14. 手順7.~8.の画面が表示されたときは、同じ操作を行います。
15. CDをCDドライブから取り出して、パソコンを再起動します。

16. 再起動後、「ネットワークのパスワード入力」画面が表示されたときは、[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]をテキストボックスに入力してから、〈OK〉をクリックします。

〈ご参考に〉

ドライバーをパソコンにインストール後は、本製品を装着するだけで使用できます。



3 設定ユーティリティについて

3-1. 設定ユーティリティのインストール

無線通信モード(※1-1章)やセキュリティの設定などを行うソフトウェアです。
この章では、設定ユーティリティをインストールする手順について説明します。
※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

■ インストールの手順

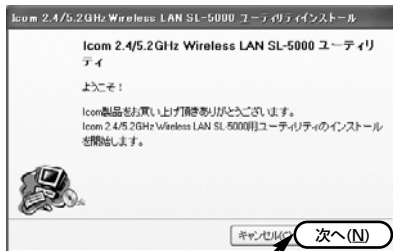
※Windows XP、Windows 2000は、
管理者権限でログオンしてください。

1. 現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
2. 本製品に付属のCDをパソコンのCDドライブに挿入します。
3. CDドライブのAuto Run機能が動作して、右のメニュー画面が表示されます。
※表示しないときは、本製品に付属するCDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックしてください。

4. 〈ユーティリティ インストール〉 ボタンをクリックします。



- インストールの手順(つづき)
5. <次へ(N)> をクリックします。



6. 設定ユーティリティをインストールする先のフォルダーに変更がなければ、<次へ(N)> をクリックします。
※インストール先のフォルダーを変更するときは、<参照> をクリックしてインストールするフォルダーを指定します。



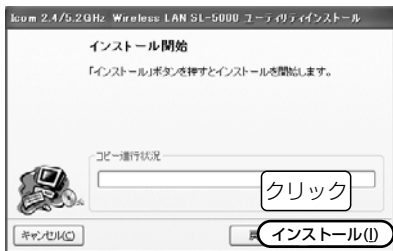
3 設定ユーティリティについて

3-1. 設定ユーティリティのインストール

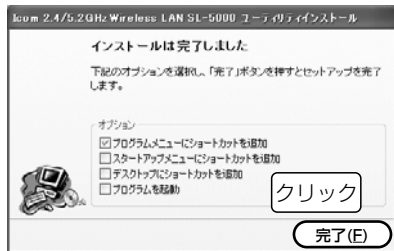
■ インストールの手順(つづき)

7. 「確認」画面を表示しますので、〈OK〉をクリックします。

8. 〈インストール(I)〉をクリックします。



9. 〈完了(E)〉をクリックすると、インストール完了です。



■再インストールするときは、インストール手順1.~5.の操作を行って表示される画面にしたがうと、アンインストールウィザードが表示され、続けて操作すると再インストールできます。

3-2.起動と終了のしかた

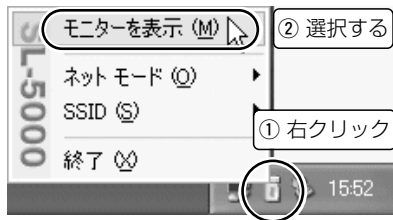
パソコンにインストールされた設定ユーティリティの起動と終了のしかたについて説明します。

■ 起動と終了の手順

- 1.本製品をパソコンのPCスロットに挿入します。
※挿入されていない状態では、設定できません。
- 2.マウスを〈スタート〉→[プログラム(P)]→[SL-5000 Utility]の順で操作します。
設定ユーティリティが起動して、常駐を示すアイコンがタスクバーの上に表示されます。
※アイコンの意味については、25ページをご覧ください。



- 3.タスクバー上に表示されたアイコンを右クリックして表示するメニューから、「モニターを表示(M)」を選択します。
※タスクバー上に表示されたアイコンをダブルクリックしても表示できません。

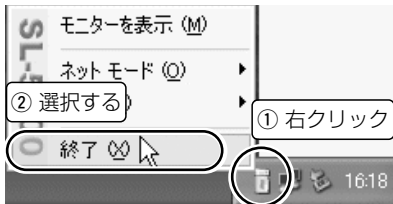


3 設定ユーティリティについて

3-2. 起動と終了のしかた

■ 起動と終了の手順(つづき)

4. 終了するときには、カーソルをそのアイコンの上に移動して、右クリックすると表示されるメニューから「終了(X)」を選択します。



■ Windows XPでご使用のかたへ

出荷時は、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(以後、ワイヤレスネットワーク接続と表記)による設定が優先されています。





無線LANの標準的な設定は、ワイヤレスネットワーク接続から設定できますが、本製品独自の機能を設定するときは、本製品の設定ユーティリティを使用してください。

本製品独自の機能を設定する場合は、「設定ユーティリティをWindows XPで使うには」(3-3章)にしたがって、設定ユーティリティから設定可能なように設定を変更する必要があります。

設定ユーティリティで通信をモニターする機能については、ワイヤレスネットワーク接続と併用できます。

3-2. 起動と終了のしかた(つづき)

■ タスクバーに表示されるアイコンの意味

	通信中	本製品を接続するパソコンが、無線ネットワークに正常に接続された状態
	スキャン中	無線通信モードが「インフラストラクチャ」のとき表示されるアイコンです。 本製品と接続するパソコンが、通信できる無線アクセスポイントの無線伝送エリアを外れた状態か、無線アクセスポイントを探している状態
	アダプタが見つかりません	本製品がパソコンに装着されていない、または本製品の接続を認識していない状態
	アダプタは正しく動作していません	本製品が接続されているが、本製品のドライバーが正しくインストールされないなどで装着を認識しない状態

3 設定ユーティリティについて

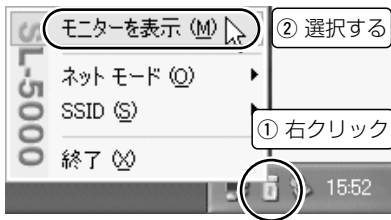
3-3.設定ユーティリティをWindows XPで使うには

Windows XPをご使用の場合、本製品のドライバーをインストールするだけで、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続から本製品の設定を変更できます。

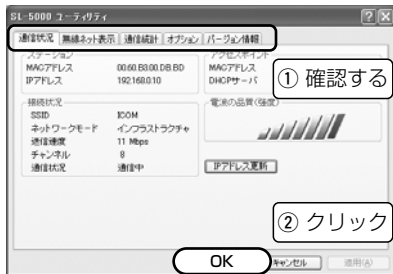
なお、設定ユーティリティを使用して、本書4-2章および5-5章に記載の設定をされる場合は、次の手順でワイヤレスネットワーク接続の設定を変更してください。

■ 設定変更の手順

- 1.設定ユーティリティを起動して、「モニターを表示(M)」をクリックします。

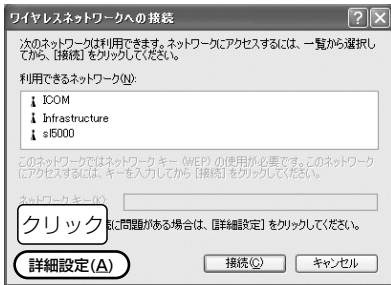


- 2.[通信設定]タブと[セキュリティ]タブが表示されていないときは、手順3.で設定を変更してください。



■ 設定変更の手順(つづき)

3. <詳細設定(A)...> をクリックします。
※下記の画面は、本書4-1章または5-4章に記載の操作で表示できます。



4. [Windows XPを使ってワイヤレスネットワークの設定を構成する(W)]のチェックボックスをクリックして、チェックマークを外します。
5. <OK> をクリックします。



6. 本製品の設定ユーティリティを起動しなおします。
7. 手順2.の画面に[通信設定]タブと[セキュリティ]タブが表示されていることを確認します。

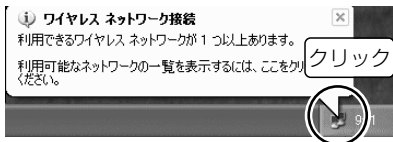
4 アクセスポイントと無線通信する

4-1.Windows XPで通信をする

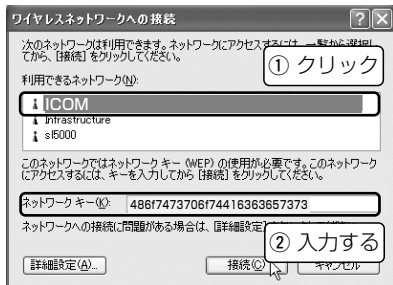
Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(以後、ワイヤレスネットワーク接続と表記)を使用して、無線アクセスポイントと通信する手順について説明します。

■ 接続の手順

- 1.本製品が使用できる状態になり、無線アクセスポイントが見つかったと、Windows XPのタスクバーに[ネットワーク]アイコンを表示します。
画面の指示にしたがって、マウスカーソルを[ネットワーク]アイコン上でクリックします。
- 2.見つかった無線アクセスポイントの[SSID]が[利用できるネットワーク(N)]に表示されますので、それをクリックします。
※暗号化されている場合は、鍵(キー)を[ネットワークキー(K)]に入力します。



※通信できる無線アクセスポイントが見つからない場合は、「×」マークを[ネットワーク]アイコンに表示します。

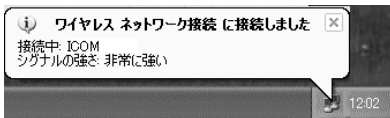


■ 接続の手順(つづき)

3. <接続(C)> をクリックします。



4. 接続されると、Windows XPのタスクバーに次の画面を表示します。



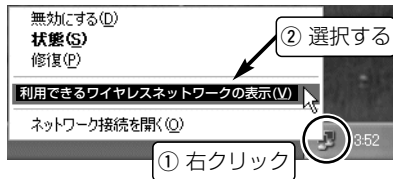
■ 次回起動時の接続について

手順2.で指定した無線アクセスポイント(例: ICOM)への接続が優先されます。

■ アクセスポイントを切り替えるには

通信を別のアクセスポイントに切り替えるときは、下記の操作で左の画面(手順3.)を表示させて、そこに表示された別のアクセスポイント名(例: s15000)を指定してください。

次回起動時、接続可能な無線アクセスポイントを検索(例: s15000→ICOMの順番)して、自動的に接続します。



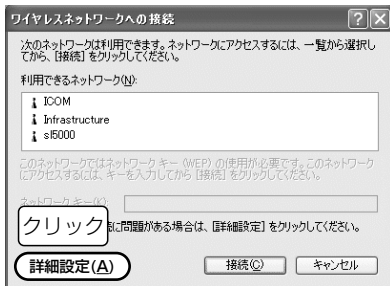
4 アクセスポイントと無線通信する

4-1.Windows XPで通信をする(つづき)

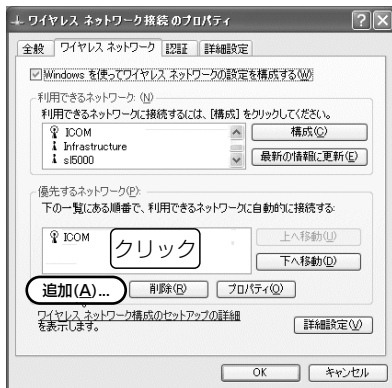
■ **アクセスポイントの設定追加について**
本製品の起動時、自動検索される無線アクセスポイントの設定を追加する手順です。

1.タスクバーの[ネットワーク]アイコンを右クリックして表示されるメニューから、[利用できるワイヤレスネットワークの表示(Y)]をクリックします。

2.〈詳細設定(A)〉をクリックします。



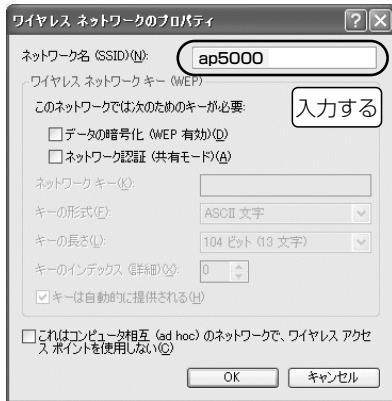
3. 〈追加(A)...〉 をクリックします。



■ アクセスポイントの設定追加について(つづき)

4. 無線アクセスポイントの[SSID]を[ネットワーク名(SSID)(N):]に半角で入力します。(入力例: ap5000)
 ※[SSID]は、機器によっては[ESS ID]と同じ意味で使用されています。

5. 暗号化する場合は、無線アクセスポイントと同じ鍵(キー)を設定します。
 下記の画面の操作で、鍵(キー)を[ネットワークキー(K):]に入力後、<OK>をクリックします。

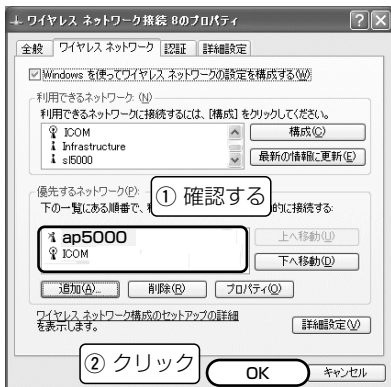


4 アクセスポイントと無線通信する

4-1.Windows XPで通信をする

■ アクセスポイントの設定追加について(つづき)

- 6.[優先するネットワーク(P)]に追加されたことを確認して、〈OK〉をクリックすると完了です。



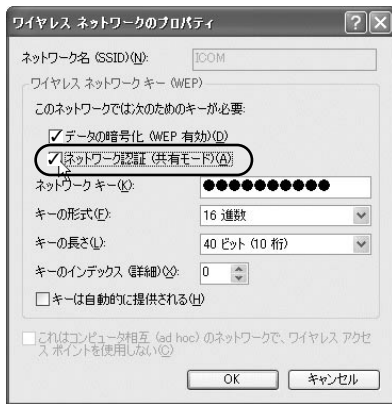
※無線チャンネルは、自動的に無線アクセスポイントのチャンネルになります。
※追加された無線ネットワーク名のアイコンに表示される「×」印は、検索できないとき表示され、次回起動時など追加した無線アクセスポイントが見つかったら「×」印は消えます。

※Windows XP(Service Pack 1を除く)の[キーのインデックス(詳細)(X)]を選択できる範囲は、「0(1)~3(4)」です。カッコ()内は、本製品の設定ユーティリティの[キー ID]で設定可能な範囲で、[キーのインデックス(詳細)(X)]と[キー ID]は同じ意味として機能します。例えば、[キー ID]が「1」のときは、[キーのインデックス(詳細)(X)]を「0」に設定すると同じ設定値として認識します。

■ 認証モードについて

暗号化鍵(キー)を使用する場合、通信相手間で[認証モード]が異なると通信できません。WEP(RC4)の暗号化を使用して「シェアードキー」認証する場合は、[ネットワーク認証(共有モード)(A)]にチェックマークを入れます。

※弊社製無線アクセスポイントは、従来より「オープンシステム」認証を採用しており、一部機種は、自動認識に対応しています。



【シェアードキー(Shared Key)認証】

暗号化を使用して無線アクセスポイントと通信する場合、設定された暗号化鍵(キー)を利用して互いが共通の暗号化鍵を持っていることを確認する方式です。

【オープンシステム(Open System)認証】

暗号化を使用して無線アクセスポイントと通信する場合、認証を行わない方式です。

【設定ユーティリティーを使うと?】

設定ユーティリティーの設定を有効(※3-3章)にすると、相手の認証モードを自動認識して接続します。また、「OCB AES」を使用して暗号化ができます。

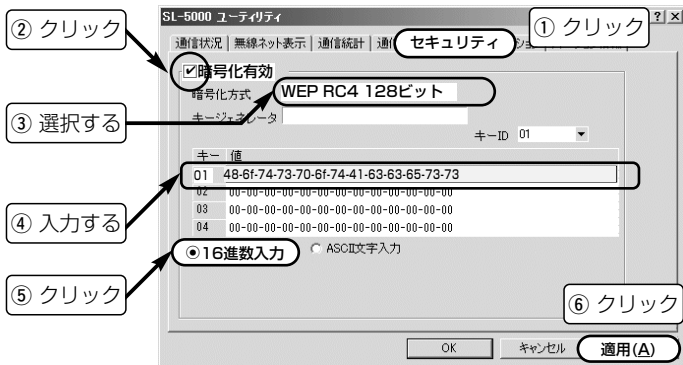
4 アクセスポイントと無線通信する

4-2.Windows 2000/Me/98 SEで通信をする

本製品の設定ユーティリティを使用して無線アクセスポイントと通信する手順について説明します。

■ 接続の手順

- 1.設定ユーティリティを起動して、「モニターを表示(M)」を選択します。
- 2.無線アクセスポイントに暗号化が設定されている場合は、[セキュリティ]タブで無線アクセスポイントと同じ鍵(キー)を入力します。(※下記は、設定例です。)



■ 接続の手順(つづき)

3.[通信状況]タブをクリックして、無線アクセスポイントとの通信を確認します。

本製品を装着するパソコンの情報です。

現在、接続している無線アクセスポイントの情報です。

通信状況

ステーション	アクセスポイント
MACアドレス 00.60.B3.00.DB.BD	MACアドレス 00.90.C7.FF.FF.FF
IPアドレス 192.168.0.10	DHCPサーバ 192.168.0.1

接続状況

SSID	ap3000HS
ネットワークモード	インフラストラクチャ
送信速度	11 Mbps
チャンネル	10
通信状況	通信中

電波の品質(強度)

電波の強さを示すグラフィック表示が5本の棒で満杯の状態です。

IPアドレス更新

通信相手を検索しているときは、スキャン中と表示されます。

DHCPサーバからIPアドレスを再取得するときのボタンです。

現在、接続している無線アクセスポイントの電波の強さで、振れが大きいほど強い電波です。

4 アクセスポイントと無線通信する

4-2.Windows 2000/Me/98 SEで通信をする(つづき)

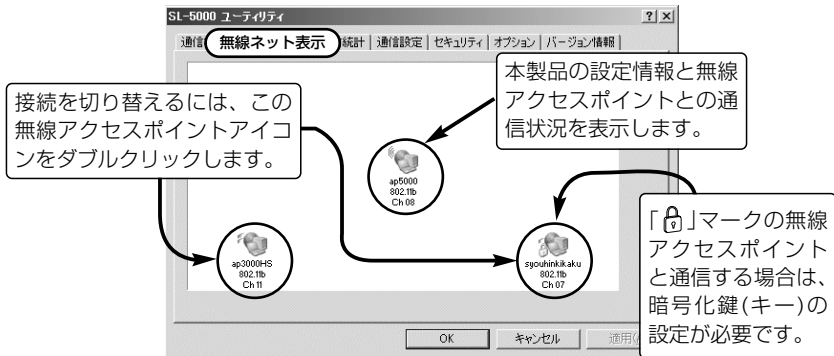
■ 次回起動時の接続について

通信環境の良い無線アクセスポイントへ自動的に接続されます。

なお、暗号化を本製品に設定している場合は、同じ暗号化鍵(キー)を持つ無線アクセスポイントの中で通信環境の良い方へ自動的に接続されます。

■ アクセスポイントを切り替えるには

別のアクセスポイント(例：ap3000HS)に接続を切り替えるときは、[無線ネット表示]タブで行います。(※暗号化キーが異なる無線アクセスポイントには切り替えできません。)



■ 起動時の優先接続について

優先する無線アクセスポイントの[SSID]を本製品に設定しておくこと、起動時の接続がその無線アクセスポイントに優先されます。

1. [通信設定]タブをクリックして、[SSID]を半角で入力します。 (例：ap5000)
2. 暗号化が必要な場合は、[セキュリティ]タブで暗号化を設定しておきます。
3. <適用(A)> または <OK> をクリックします。



5 パソコン同士で無線通信する

5-1.IPアドレスを設定する

パソコン同士が無線通信を行うには、固定IPアドレスをパソコンに割り当ててから、本製品の設定を行い通信する必要があります。

※本書では、Windows XPを例に説明しています。(☞そのほかのOSは補足説明書を参照)

■ IPアドレスの指定について

IPアドレスを設定するときは、下記のことを注意してください。

- 同一ネットワークグループ内におけるすべてのパソコンのIPアドレスは、重複しないように設定してください。
- 同一ネットワークグループ内におけるすべてのパソコンのサブネットマスクは、同じ値を設定してください。
- 小規模なネットワーク(253台まで)でご使用になる場合は、プライベートアドレスとして192.168.0.0~192.168.255.255を使用します。
なお、192.168.×××.0(ネットワークアドレス)と192.168.×××.255(ブロードキャストアドレス)は、特別なアドレスとして扱われますので、パソコンには割り当てないでください。(×××：0~255)

3台のパソコンで無線LANを構成するときは、以下ようになります。

パソコンA：192.168.0.10(サブネットマスク：255.255.255.0)

パソコンB：192.168.0.11(サブネットマスク：255.255.255.0)

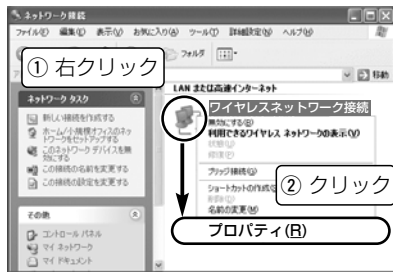
パソコンC：192.168.0.12(サブネットマスク：255.255.255.0)

■ 設定の手順

1. 設定に使用するパソコンを起動します。
 - 「ログオン」画面を表示します。
2. 管理者のユーザー名でログオンします。
3. パソコンが起動したら、マウスを〈スタート〉 → [コントロールパネル(C)]の順に操作します。
4. コントロールパネルから、[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。
5. [ネットワーク接続]アイコンをクリックします。



6. 本製品の名称が表示された[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンを右クリックして、表示されるメニューから[プロパティ(R)]をクリックします。

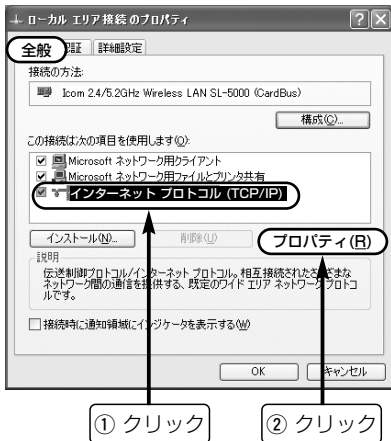


5 パソコン同士で無線通信する

5-1. IPアドレスを設定する

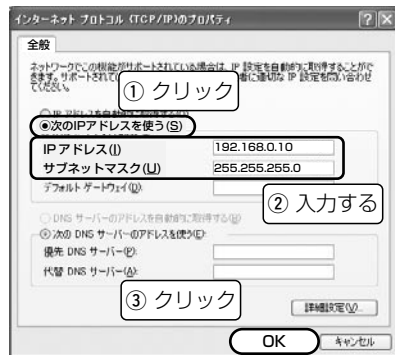
■ 設定の手順(つづき)

7. 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」をクリックして、〈プロパティ(R)〉をクリックします。



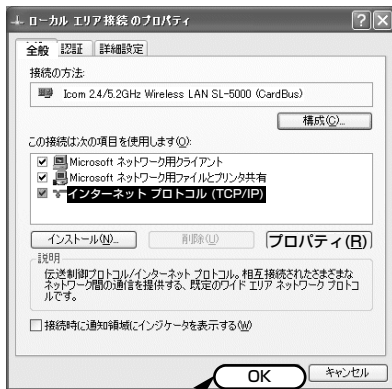
8. [次のIPアドレスを使う(S)]のラジオボタンをクリックして、チェックマークを入れます。

[IPアドレス(I)]と[サブネットマスク(U)]を入力(※P38を参照)して、〈OK〉をクリックします。



■ 設定の手順(つづき)

9.手順7.の画面が表示されますので、
〈OK〉をクリックします。



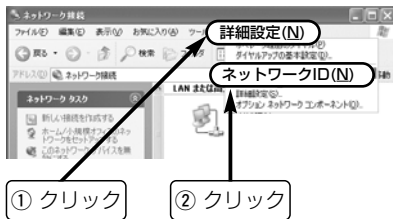
5 パソコン同士で無線通信する

5-2. 「フル コンピュータ名」と「ワークグループ」の設定

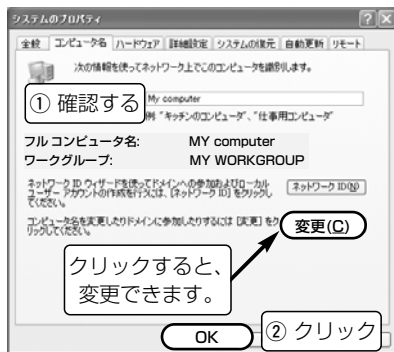
※本書では、Windows XPを例に説明しています。(※そのほかのOSは補足説明書を参照)

■ 設定の手順

- 1.5-1章(本書)の手順(1.~5.)で、「ネットワーク接続」画面を表示させます。
- 2.「詳細設定(N)」から「ネットワークID(N)」をクリックします。



- 3.「フル コンピュータ名」と「ワークグループ」の変更が必要な場合は、〈変更〉をクリックすると変更できます。
※入力は、半角英数字で行います。



【フル コンピュータ名：】

ネットワーク上で、パソコンごとに識別用の名前を入力します。

なお、同じネットワークグループのパソコンと重複しないように設定してください。

【ワークグループ：】

同じ名前を設定したパソコンが、ネットワーク上で同じネットワークグループとして認識されます。

同じグループ名を通信の対象となるすべてのパソコンに設定してください。

【コンピュータの説明(D)：】

必要があれば、任意に入力します。

5 パソコン同士で無線通信する

5-3.「共有フォルダー」の設定

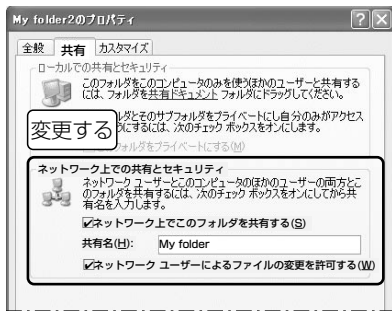
自分のパソコンのドライブまたはフォルダーを相手先に公開するには共有フォルダーの設定が必要です。

※本書では、Windows XPを例に説明しています。(※そのほかのOSは補足説明書を参照)

■ 設定の手順

- 1.[マイコンピュータ]アイコンなどから、共有したいフォルダーのあるウィンドウを開きます。
- 2.共有したいフォルダー上にカーソルを移動して右クリックします。
表示されたメニューから[共有とセキュリティ(H)...]をクリックします。

- 3.[ネットワーク上での共有とセキュリティ]の設定内容を変更します。
 - 共有設定したフォルダーには、共有を示すアイコンが表示されます。



■ 設定の手順(つづき)

4.手順3.の画面で〈OK〉をクリックします。



〈ご参考に〉

手順3.の画面は、Windows XPが「簡易共有」に設定されている場合の画面です。共有するフォルダーのアクセス許可を特定のユーザーだけに設定できません。

共有を特定のユーザーに限定する場合は、「フォルダ オプション」の[表示]タブで、「簡易ファイルの共有を使用する(推奨)」のチェックマークを外すと可能になります。下記は、そのときの設定画面です。



5 パソコン同士で無線通信する

5-4.Windows XPで通信をする

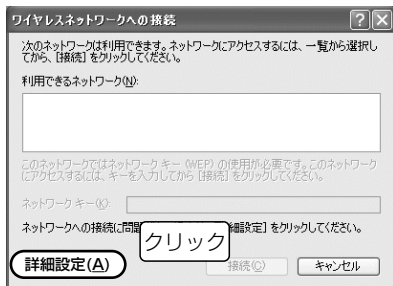
Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(以後、ワイヤレスネットワーク接続と表記)を使用して、相手のパソコンと直接通信する手順について説明します。

■ 本製品の設定

- 1.本製品を装着すると、Windows XPのタスクバーに[ネットワーク]アイコンを表示します。
- 2.[ネットワーク]アイコンを右クリックして表示されるメニューから、[利用できるワイヤレスネットワークの表示(V)]をクリックします。



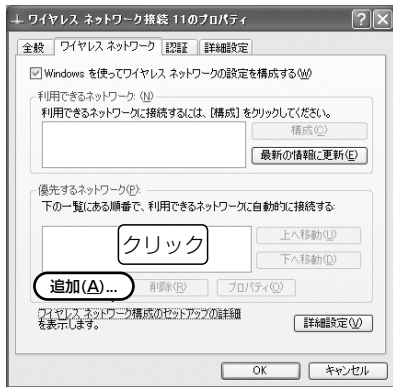
- 3.〈詳細設定(A)〉をクリックします。



※出荷時は、通信できる無線アクセスポイントを自動検索します。
検索できない環境では、「×」マークを[ネットワーク]アイコンに表示します。

■ 本製品の設定(つづき)

4. <追加(A)...> をクリックします。



<ご参考に>

[ESS ID]と[SSID]は、同じ意味で使用されています。

5.相手の[SSID]を[ネットワーク名 (SSID)(N):]に半角で入力します。

(入力例：SL5000)

6.無線通信モードを「アドホック」に設定します。



5 パソコン同士で無線通信する

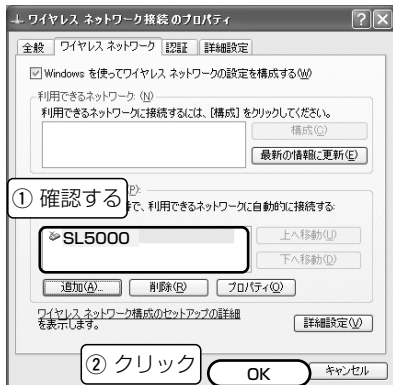
5-4.Windows XPで通信をする

■本製品の設定(つづき)

- 7.WEP(RC4)を使用して暗号化する場合は、相手と同じ鍵(キー)を設定します。
※鍵(キー)を[ネットワークキー(K)]に
入力後、〈OK〉をクリックします。



- 8.[優先するネットワーク(P)]に追加されたことを確認して、〈OK〉をクリックすると完了です。



■ 本製品の設定(つづき)**【設定のご参考に】**

※無線チャンネルは、設定不要です。

自動的に相手のチャンネルになります。

※「アドホック」モードでは、[ネットワーク認証]を設定しても無効になります。

※追加された無線ネットワーク名のアイコンに表示される「×」印は、検索できないとき表示され、次回起動時など追加した通信相手が見つかると「×」印は消えます。

※Windows XP(Service Pack1を除く)の[キーのインデックス(詳細)(X)]を選択できる範囲は、「0(1)~3(4)」です。カッコ()内は、本製品の設定ユーティリティの[キー ID]で設定可能な範囲で、[キーのインデックス(詳細)(X)]と[キー ID]は同じ意味として機能します。例えば、[キー ID]が「1」のときは、[キーのインデックス(詳細)(X)]を「0」に設定すると同じ設定値として認識します。

【設定ユーティリティを使うと?】

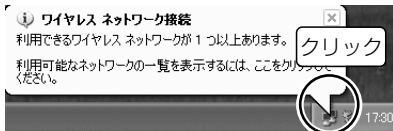
設定ユーティリティの設定を有効(※3-3章)にした場合は、「OCB AES」を使用して暗号化ができます。

5 パソコン同士で無線通信する

5-4.Windows XPで通信をする

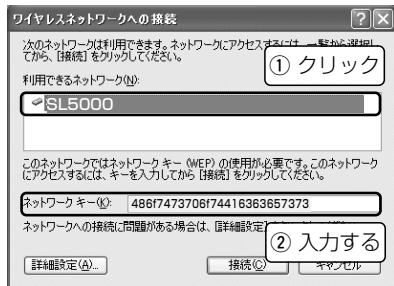
■ 接続の手順

- 1.通信相手が見つかったと、Windows XPのタスクバーに[ネットワーク]アイコンを表示します。
画面の指示にしたがって、マウスカーソルを[ネットワーク]アイコン上でクリックします。



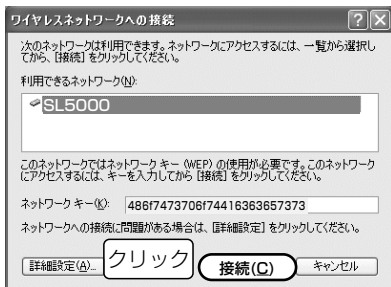
- ※[ネットワーク]アイコンだけが表示される場合は、無線伝送エリア内に通信相手がない通信待ちの状態です。

- 2.見つかった通信相手の[SSID]が[利用できるネットワーク(N)]に表示されますので、それをクリックします。
※暗号化されている場合は、鍵(キー)を[ネットワークキー(K)]に入力します。

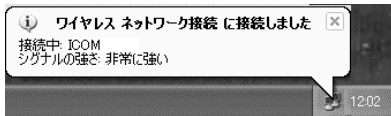


■ 接続の手順(つづき)

3. <接続(C)> をクリックします。



4. 接続されると、Windows XPのタスクバーに次の画面を表示します。



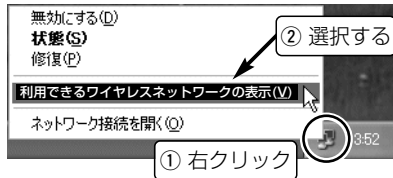
■ 次回起動時の接続について

本製品に設定した[SSID(例：SL5000)]を持つパソコンへの接続が優先されます。

■ 通信相手を切り替えるには

通信を別のパソコンに切り替えるときは、下記の操作で左の画面(手順3.)を表示させ、そこに表示された別のパソコン名(例：SL50)を指定してください。

次回起動時、接続可能なパソコンを検索(例：SL50→SL5000の順番)して、自動的に接続します。



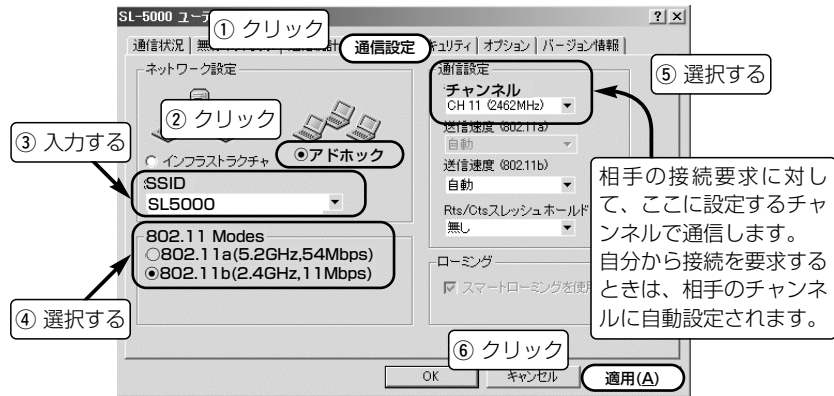
5 パソコン同士で無線通信する

5-5.Windows 2000/Me/98 SEで通信をする

本製品の設定ユーティリティを使用して、相手のパソコンと直接通信する手順について説明します。

■ 接続の手順

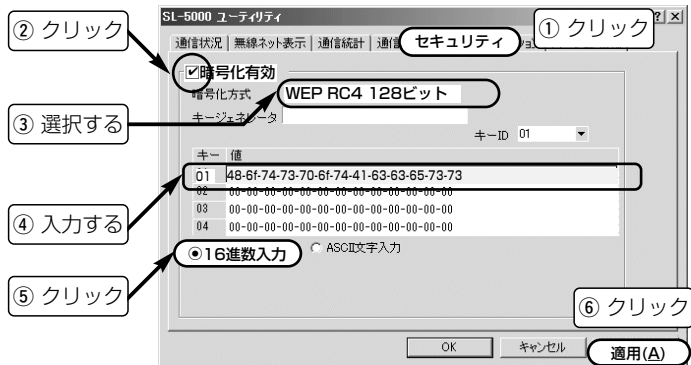
- 1.設定ユーティリティを起動して、「モニターを表示(M)」を選択します。
- 2.[通信設定]タブで、下記の設定をしてから〈適用(A)〉をクリックします。



■ 接続の手順(つづき)

3.相手のパソコンに暗号化が設定されている場合は、[セキュリティ]タブで相手と同じ鍵(キー)を入力します。

※下記の設定例を参考に設定してください。



〈ご参考に〉

起動時、[SSID]が空白(出荷時の設定：何も設定されていない)の場合は、「アドホック」モードに設定されている通信環境の良い方のパソコンに接続されます。

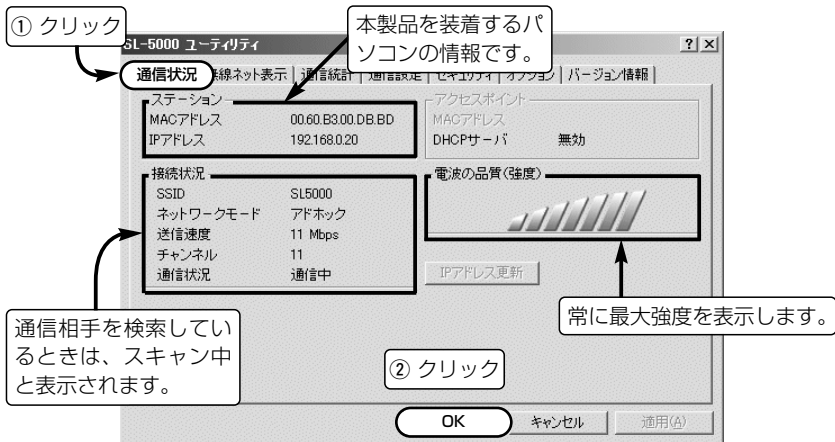
5 パソコン同士で無線通信する

5-5.Windows 2000/Me/98 SEで通信をする(つづき)

■ 接続の手順(つづき)

4.[通信状況]タブをクリックして、通信状態を確認します。

※「アドホック」モードの場合、相手との通信確認は、Pingコマンドで確認(※6-4章)してください。



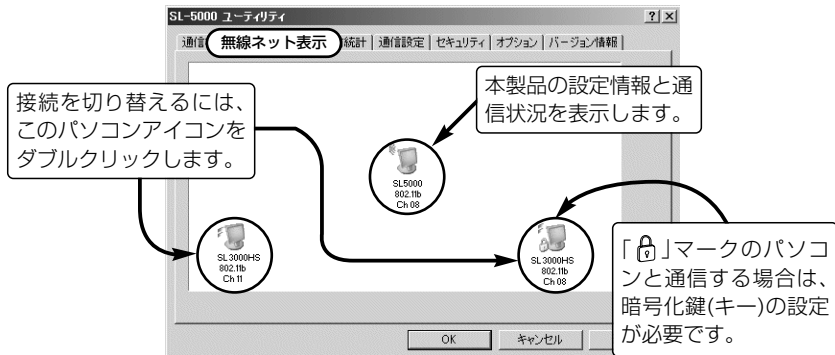
■ 次回起動時の接続について

本製品に設定した[SSID(例：SL5000)]を持つパソコンへの接続が優先されます。
なお、暗号化を本製品に設定している場合は、同じ鍵(キー)を持つパソコンの中で通信環境の良い方に接続します。

■ 通信相手を切り替えるには

別のパソコン(例：SL3000HS)に接続を切り替えるときは、[無線ネット表示]タブで行います。

※暗号化キーが異なるパソコンには切り替えできません。



6-1.本製品の取り外しかた

パソコンを使用中、本製品を取り外す場合の手順について説明します。

取り外す前に、通信相手と送受信中でないことを確認してから下記の操作をしてください。

※本製品をPCカードスロットに装着しなおすと、再使用できます。

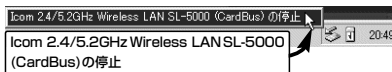
■ 取り外すときの手順

- 1.タスクバーに表示された「ハードウェア
取り外し」アイコン→「Icom 2.4/5.2
GHz Wireless LAN SL-5000(Card-
Bus)」の順にクリックします。

[Windows XP]



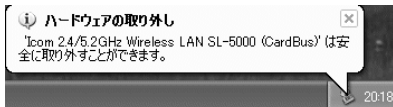
[Windows Me/Windows 2000]



[Windows 98 SE]



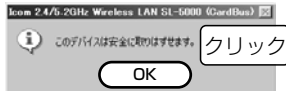
- 2.Windows XPは、表示を確認します。



[Windows Me/Windows 2000]



[Windows 98 SE]



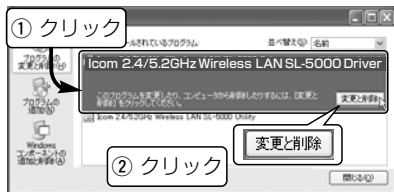
6-2.本製品のアンインストール

本製品(ドライバーまたは設定ユーティリティ)をパソコンからアンインストールする手順について説明します。(※手順は同じため、ドライバーを例に説明します。)

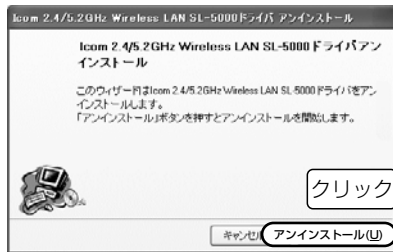
設定ユーティリティが起動中の場合は、終了してからアンインストールしてください。

■ Windows XPの場合

- 1.マウスを〈スタート〉→[コントロールパネル(C)]の順に操作します。
- 2.コントロールパネルから、[プログラムの追加と削除]をクリックします。
- 3.[Icom 2.4/5.2GHz Wireless LAN SL-5000 Driver]→〈変更と削除〉の順にクリックします。



- 4.〈アンインストール(U)〉をクリックして、表示される画面にしたがいます。



- 5.本製品がパソコンに装着されている場合は、取り外します。

6 ご参考に

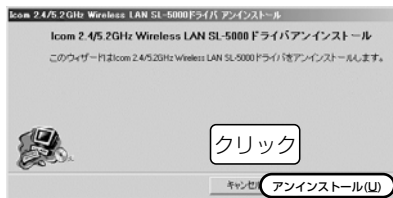
6-2.本製品のアンインストール(つづき)

■ Windows 2000/Me/98 SEの場合(※Windows Meの画面を例にしています。)

- 1.本製品を取り外します。
- 2.マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]→[アプリケーションの追加と削除]の順に操作します。
- 3.[Icom 2.4/5.2GHz Wireless LAN SL-5000 Driver]→〈追加と削除(R)...〉の順にクリックします。



- 4.〈アンインストール(U)〉をクリックして、表示する画面にしたがいます。



- 5.本製品がパソコンに装着されている場合は、取り外します。

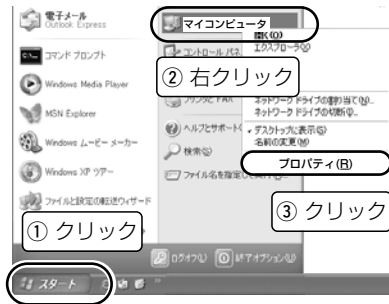
6-3.本製品のインストール状態を確認する

Windows XPを例に、本製品のドライバーが正常にインストールされていることを確認する手順を説明します。

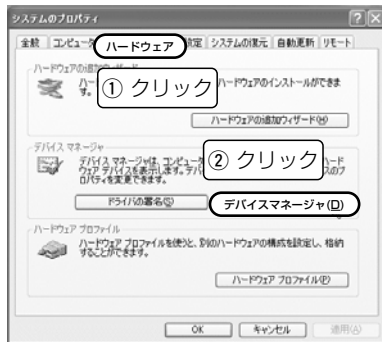
※本製品をパソコンのPCカードスロットに装着した状態で行ってください。

■ 確認の手順

- 1.マウスを〈スタート〉→[マイコンピュータ](右クリック)→「プロパティ(B)」の順にクリックします。
 - 「システムのプロパティ」を表示します。



- 2.[ハードウェア]タブ→〈デバイス マネージャ(D)〉の順にクリックします。
 - 「デバイス マネージャ」を表示します。



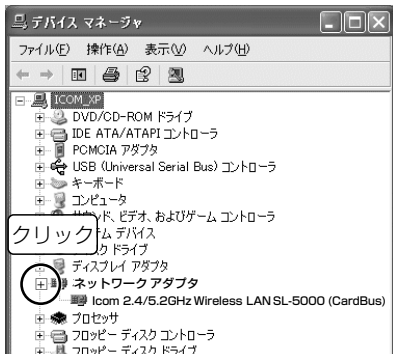
6 ご参考に

6-3.本製品のインストール状態を確認する

■ 確認の手順(つづき)

3.「ネットワークアダプタ」の田をクリックします。

- ドライバーが正しくインストールされていると、「Icom 2.4/5.2GHz Wireless LAN SL-5000(Card-Bus)」を、画面のように表示します。



※左下の画面で「Icom 2.4/5.2GHz Wireless LAN SL-5000(CardBus)」のアイコンに「!」や「×」マークがついていたり、「? その他のデバイス」という項目に「Icom 2.4/5.2GHz Wireless LAN SL-5000(CardBus)」が表示されているときは、本製品のドライバーを再インストールしてください。

【ドライバーの再インストールについて】

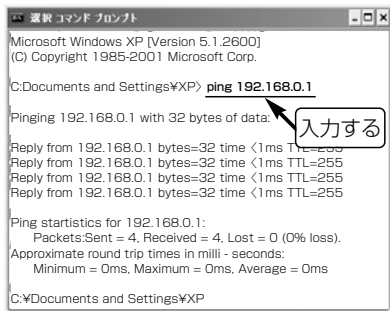
再インストールは、PCカードスロットから本製品を取り外して行ってください。インストールの手順(2章)にしたがってウィザードを実行すると、途中でアンインストールウィザードが表示されます。アンインストール操作に続き、インストールウィザードでインストールを行ってください。

6-4.Pingコマンドで接続を確認する

IPパケットが通信先に正しく届いているかを、次の操作で確認できます。
Windows XPを例に、以下の操作手順を説明します。

■ 確認の手順

- 1.マウスを〈スタート〉→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]の順に操作します。
- 2.キーボードからPingコマンドを入力して、[Enter]キーを押します。
※「192.168.0.1」を相手先のIPアドレスとすると、下記ようになります。
ping 192.168.0.1と入力して、[Enter]キーを押します。
- 3.接続が正常なときは、右の画面のような結果を表示します。



```
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\¥XP> ping 192.168.0.1

Pinging 192.168.0.1 with 32 bytes of data:
Reply from 192.168.0.1 bytes=32 time <1ms TTL=255
Reply from 192.168.0.1 bytes=32 time <1ms TTL=255
Reply from 192.168.0.1 bytes=32 time <1ms TTL=255
Reply from 192.168.0.1 bytes=32 time <1ms TTL=255

Ping statistics for 192.168.0.1:
    Packets:Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
    Approximate round trip times in milli - seconds:
        Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms

C:\¥Documents and Settings\¥XP
```

※画面中に表示される数値については、
ご使用のネットワーク環境によって異
なります。

6-5.トラブルシューティング

下記のような症状でお困りの場合の対処方法について説明しています。

■ ドライバー/設定ユーティリティをWindows XP/Windows 2000にインストール、またはアンインストールできない

〈原因〉 OSを管理者(administrator)権限でログオンしていない

〈対策〉 OSを管理者のユーザー名でログオンしなおす

■ 本製品をPCカードスロットに装着してもランプが点灯しない

〈原因〉 PCカードアダプターが機能していない

〈対策〉 PCカードアダプターが正常に動作していることを確認(☞1-3章)する

〈原因〉 本製品のドライバーが正しくインストールされていない

〈対策〉 ドライバーのインストール状態を確認(☞6-3章)する

■ ドライバーが正しくインストールできない

〈原因〉 「Icom 2.4/5.2GHz Wireless LAN SL-5000(CardBus)」のアイコンに「!」や「×」マークがついていたり、「? その他のデバイス」という項目に「Icom 2.4/5.2GHz Wireless LAN SL-5000(CardBus)」が表示されている(☞6-3章)

〈対策〉 本製品のドライバーを再インストールする

■ 無線アクセスポイントと通信できない

〈原因〉無線アクセスポイントからパソコンのIPアドレスを取得できていない

〈対策〉無線アクセスポイントが使用できる状態にして、本製品が装着されたパソコンを再起動する

〈原因〉無線アクセスポイントのDHCPサーバ機能が無効に設定されている

〈対策〉無線アクセスポイントのDHCPサーバ機能を有効に設定する

〈原因〉無線LANカードのIPアドレスを固定に変更している

〈対策〉無線LANカードのIPアドレスを「自動的に取得」に設定する

〈原因〉本製品が起動したとき、「アドホック」モードで通信している

〈対策〉無線通信モードを「インフラストラクチャ」に設定する

〈原因〉本製品に設定した[SSID]と異なる無線アクセスポイントが存在する

〈対策〉[SSID]の設定を現状の無線アクセスポイントに変更するか、ワイヤレスネットワーク接続または設定ユーティリティーを使用して接続を切り替える

〈原因〉無線アクセスポイント側でMACアドレスセキュリティ(もしくは、MACアドレスフィルター)が設定されている

〈対策〉無線アクセスポイント側に本製品のMACアドレスを登録する

※本製品のMACアドレスは、設定ユーティリティーの[通信状況]タブに表示されます。

〈原因〉無線アクセスポイント側で、暗号化鍵(キー)が設定されている

〈対策〉無線アクセスポイント側と同じ暗号化鍵(キー)を本製品に設定する

6 ご参考に

6-5.トラブルシューティング

■ 無線アクセスポイントと通信できない(つづき)

〈原因〉 無線アクセスポイントと本製品の暗号化認証モードが異なっている

〈対策〉 Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を設定に使用している場合は、「■ 認証モードについて」(P33 : 4-1章)を参考に、認証モードを「シェアードキー」に変更か、本製品の設定を「設定ユーティリティー」から行えるように変更(3-3章)してみる

※本製品の「設定ユーティリティー」を使用すると、無線アクセスポイントの認証モードを自動認識して接続します。

〈原因〉 無線アクセスポイントと暗号化方式(RC4、OCB AES)および暗号化ビット数の設定が異なっている

〈対策〉 暗号化方式とそのビット数を同じに設定する

※ワイヤレスネットワーク接続で使用できる暗号化方式は、「RC4」だけです。

■ パソコン同士で無線通信できない

〈原因〉 本製品のIPアドレスを「自動的に取得」に設定している

〈対策〉 本製品のIPアドレスを固定(5-1章)で割り当てる

〈原因〉 本製品が起動したとき、「インフラストラクチャ」モードで通信している

〈対策〉 無線通信モードを「アドホック」に設定する

〈原因〉 [SSID]の設定が通信するほかのパソコンと異なる

〈対策〉 [SSID]の設定をほかのパソコンと同じに変更する

6-6.コールセンターについて

アイコム無線LAN製品について、お客様の疑問・質問にお答えするコールセンターを土日祝日も含めて開設しています。

本製品は、弊社コールセンターのサポート対象製品です。

ご不明な点がございましたら、下記まで、お気軽にお問い合わせください。

TEL 06-6795-1770 (*通話料はお客様負担となります。)

営業時間：平日・土日祝日 9:00~12:00、13:00~17:00

(※年末・年始、お盆休みを除きます。)

■Eメール、FAX、郵便によるお問い合わせも受け付けております。

- Eメール：support_center@icom.co.jp
- F A X：06-6793-3336
- 住 所：〒547-0004

大阪市平野区加美鞍作 1-6-19
アイコム(株) コールセンター宛



6-7.故障のときは

- 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- 修理を依頼されるとき

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とパソコンの設定などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

- アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

6-8. 定格

■ 54Mbps無線部

- 国際規格：IEEE 802.11a準拠
- 国内規格：ARIB STD-T71
- 通信方式：単信方式
- 電波方式：直交周波数分割多重方式(OFDM)
- 変調方式：OFDM-BPSK、QPSK、16QAM、64QAM
- 使用周波数範囲：5150～5250MHz(5.2GHz帯)
- チャンネル数：全4ch(34ch/38ch/42ch/46ch)
- 通信速度：自動、54/48/36/24/18/12/9/6Mbps
- 最大伝送距離：屋内約55m(見通し)
- セキュリティ：OCB AES：128bit
WEP(RC4)：64bit/128bit/152bit
- グループ通信：Service Set-Identifier(SSID)
- アンテナ：ダイバーシティー方式
- 送信出力：10mW/MHz以下
- 受信感度：-65dBm以下(フレームエラーレート=10%)
- 復調方式：OFDM復調

6 ご参考に

6-8.定格(つづき)

■ 11Mbps無線部

- 国際規格：IEEE 802.11b準拠
- 国内規格：ARIB STD-T66
- 通信方式：単信方式
- 電波方式：直接スペクトラム拡散
- 変調方式：DBPSK、DQPSK、CCK/バーガー符号
- 使用周波数範囲：2400～2483.5MHz(2.4GHz帯)
- チャンネル数：全13ch(1ch～13ch)
- 通信速度：自動、11/5.5/2/1Mbps
- 最大伝送距離：屋内約50m(11Mbps時:約30m)※見通し
屋外約150m(11Mbps時:約70m)※見通し
- セキュリティ：OCB AES：128bit
WEP(RC4)：64bit/128bit/152bit
- グループ通信：Service Set-Identifier(SSID)
- アンテナ：ダイバーシティー方式
- 送信出力：10mW/MHz以下
- 受信感度：-76dBm以下(フレームエラーレート=8%)
- 復調方式：デジタル復調(マッチドフィルター方式)

■ 一般仕様

- インターフェイス：CardBus Type II
- 入力電圧：DC3.3V±5%
- 消費電流：400mA(Typ)
- 使用温度範囲：0～+55℃
- 保存温度範囲：-20～+65℃(※結露しないこと)
- 重量：約50g(付属品を除く)
- 対応機種：PC/AT互換機(DOS/V)
- 外形寸法：121(W)×11.4(H)×54(D)mm(※突起物を除く)
- 対応OS：Windows XP、Windows 2000、
Windows Millennium Edition、Windows 98 Second Edition

■ 暗号化方式対応表

OCB AES	AES		WEP(RC4)		
128bit	128bit	256bit	64bit	128bit	152bit
○	×	×	○	○	○

※ 定格・仕様・外観等は改良のため予告なく変更する場合があります。

※ 伝送距離は、通信速度や環境によって異なります。

高品質がテーマです。

A-6225X-1J-①

Printed in Taiwan

© 2002 Icom Inc.021127

アイコム株式会社

本 社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	003-0806	札幌市白石区菊水6条2-2-7	TEL 011-820-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	468-0066	名古屋市天白区元八事3-249	TEL 052-832-2525
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞆作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。